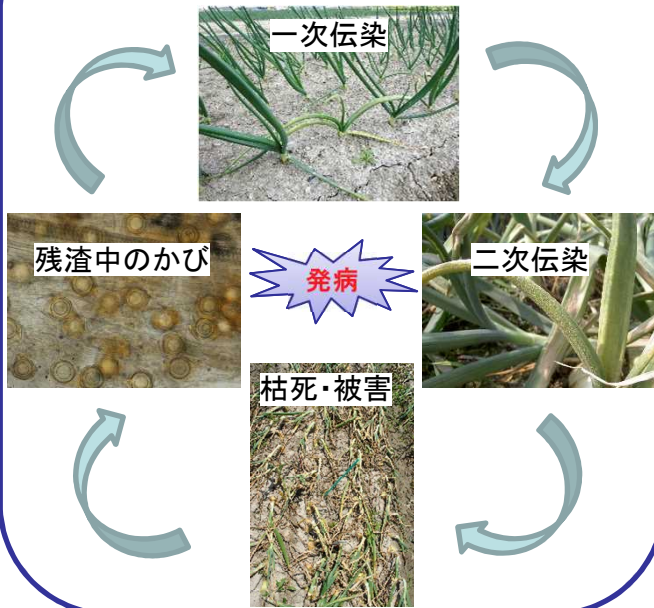


たまねぎべと病防除の第一歩は**ざんさ**残渣処理 ～石灰窒素施用による一次伝染源抑制～

【背景・目的・成果】

たまねぎ、特に淡路島で生産される「淡路島たまねぎ」は、その糖度の高さと柔らかさで全国的に高く評価されブランド化されています。産地では平成28年にべと病が大発生し大きな被害を受けました。その後、様々な対策が講じられていますが、発病後の二次伝染対策が中心でした。そこで、翌年の一次伝染源となる発病残渣を腐熟・分解させるため、残渣すき込み時の石灰窒素施用が有効であることを明らかにしました。

べと病の伝染環:たまねぎ**発病**残渣内のかびが翌年の伝染源となって病気が発生



伝染源低減技術:発病残渣を早期に腐熟させることによって翌年の病気の発生を抑える技術

方法1・・・収穫後の圃場を長期間(45日間以上)湛水する。

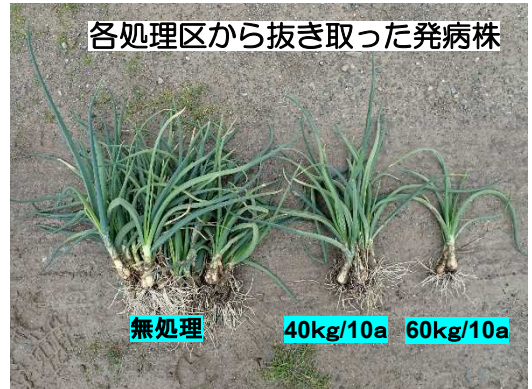
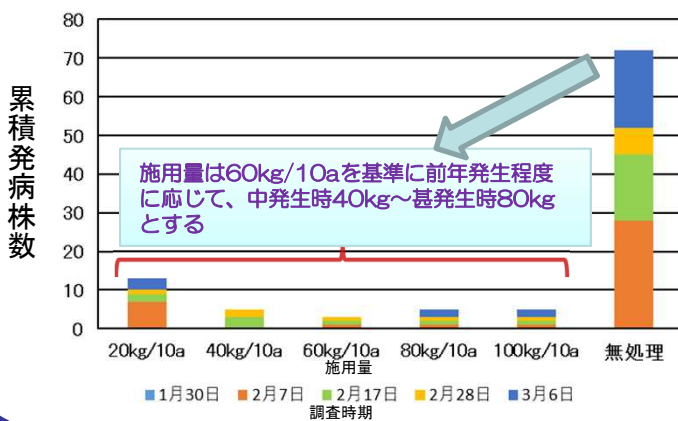


方法2・・・残渣の腐熟を促進する資材として石灰窒素を施用することによってべと病の1次伝染の発生を抑制する。

方法2の有効性を明らかにしました！！

* : 小面積なら残渣を圃場外に持ち出しても有効です

石灰窒素施用による発病抑制:べと病発生圃場の残渣すき込み時に石灰窒素を施用したところ、次作のべと病一次伝染株の発生が減少。(湛水と同等の効果)



石灰窒素施用による発病抑制

【技術の活用・留意点】

- ・石灰窒素は、粒状を用い収穫後の圃場に全層施用し、ロータリーで丁寧に混和します。
- ・施用時期はたまねぎ収穫後の残渣すき込み時を厳守してください。
- ・石灰窒素の施用は、前作の被害程度が中以上で湛水の困難な畑地や水利条件の悪い圃場が適しています。

